

研究主題 「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を 育成する社会科の課題解決的な学習

—多様な視点に着目させ、

社会的な見方・考え方を働かせる学習活動を通して—」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

大田区立蓮沼中学校 指導教諭 坂西 勉

第1 研究のねらい

平成25年度の「学習指導要領実施状況調査」（平成26年3月 国立教育政策研究所）において、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成するためには、（中略）生徒が自己と社会とのつながりを見だし、自分自身の課題として捉えて考えたり判断したりして、表現できるようにするなどの工夫が必要である。」と示されている。また、中学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）（以下、「解説編」と表記。）では、「学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合には、社会的事象等を読み取りやすくするために、写真などの資料や発問を工夫すること」などの配慮をする必要があることについて示されている。

上記を踏まえ、課題解決的な学習を行う際に、多様な視点に着目させる資料から生徒が「問い」を見だし、その解決に向けて構想することで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成することが重要であると考え、本研究のねらいとした。

第2 研究仮説

単元を通して多様な視点に着目させる資料を提示することで、生徒が自ら「問い」を設定し、その解決に向けて構想することができ、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成できるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 平成30年度の「東京都中学校社会研究開発委員会指導資料集」（平成31年3月 東京都教育委員会）において、「単元を貫く学習課題の追究によって、将来、自らが主権者となり、社会を担っていく主体として関わっていこうという態度（社会参画意識）を身に付けた」という成果が報告された。その一方で、「各時間の追究が単元を通じた学習課題の解決に十分につながらない生徒がいた」ことが課題となった。そこで本研究では、課題解決的な学習を行う際には、各時間の「問い」を設定させる必要があると考えた。

(2) 解説編には「『見方・考え方』を働かせる際に着目する視点は、（中略）多様にあることに留意することが必要である。」と示されている。このことから本研究では、多様な視点に着目させ、その視点を生かして考察や構想（選択・判断）に向かう「問い」を設定させる必要があると考えた。

2 調査研究

2区、1市の社会科教員に課題解決的な学習について4件法でアンケート調査を行ったところ、課題解決的な学習を重視している教員ほど、よりよい社会の実現を視野に課題を主

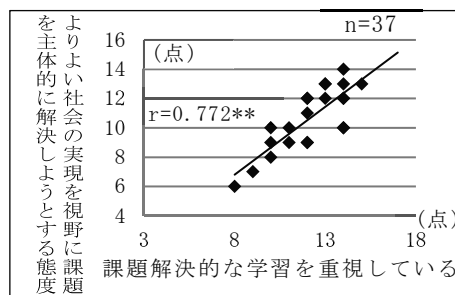


図1 教員用アンケート調査

体的に解決しようとする態度を生徒に育成できていると考える傾向 ($r=0.772(p<0.001)$) が見られた (図1)。

なお、関係の強さについて、 $0.7 < r$ は統計上「強い相関あり」とみなす。また、 p の値は 0 に近いほど信憑性が高いことを示す。

このことから、課題解決的な学習を行うことで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成につながると考えられる。

3 開発研究

(1) 「Qシート」を活用して生徒が自ら「問い」を設定 (図2)

単元全体の「問い」と各時間の「問い」を生徒に設定させ、課題解決的な学習を行うためのワークシートとして「Qシート」を開発した。この「Qシート」を活用して生徒自らに単元全体の「問い」を設定させることで、単元を通して生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり、構想したりできると考えた。また、「Qシート」を活用して各時間の「問い」を設定させることで、各時間のつながりを生徒自身が意識できると考えた。

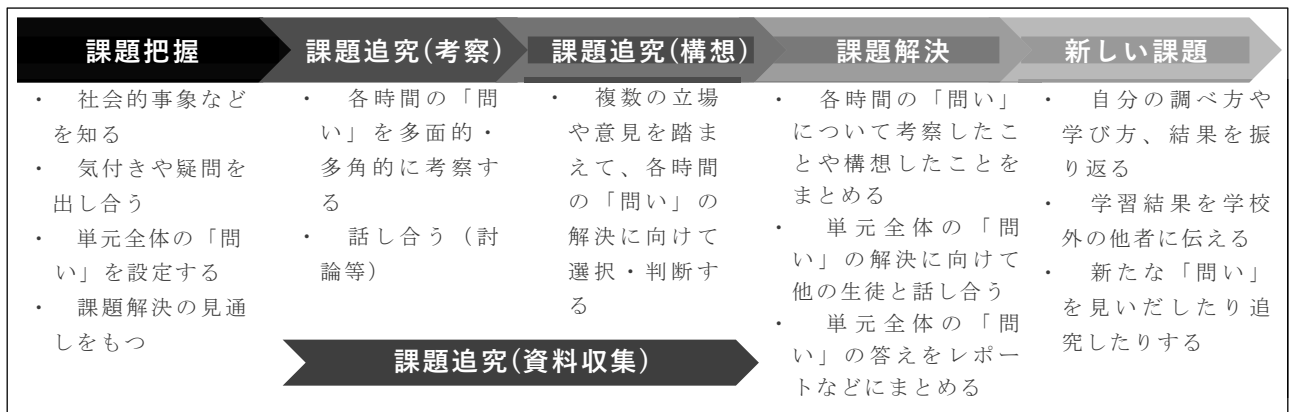


図2 Qシートの活用方法

(2) 生徒が「問い」を設定し、その解決に向かうための資料の精選

多様な視点に着目させるために、2種類の視点に合わせて資料を精選する方法を開発した(表1)。「現代社会を捉える視点」に着目させる資料は、生徒が資料を読み取ることによって社会的な事象を多様な視点に着目して捉えられる内容を選び、「問い」の設定に活用させる。

表1 多様な視点に着目させるための資料の精選方法

	考えられる視点例	現代社会の見方・考え方
現代社会を捉える視点	対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性など	社会的な事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉える
社会に見られる課題の解決を構想する視点	対立と合意、利便性と安全性、効率と公正、持続可能性、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、国際協調、民主主義など	よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

「社会に見られる課題の解決を構

想する視点」に着目させる資料は、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けられる内容を選び、「問い」の解決に活用させる。

4 検証授業及び検証授業の分析

都内公立中学校の第3学年「地方自治」(全4時間)の検証授業を実施し、以下の3点から手だての有効性を検証した。

(1) 生徒の課題解決的な学習への取り組みに対する有効性

検証授業前後の生徒用アンケート調査の比較では、「社会科の授業で、友達の意見を聞いて自分の考えをもつことができますか」に「できる」と回答した生徒の割合が授業前に比べて35ポイント増加した（図3上段）。

「社会科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりすることができますか」に「できる」と回答した生徒の割合は37ポイント増加した（図3下段）。

また、以下に示す生徒の授業後の感想からは、生徒が自ら「問い」を設定することで、

「課題に対して生徒一人一人が自分の意見をもつことができた」、「グループで課題を追究することができた」などの記述が見られた。このことから、主体的に課題解決的な学習に取り組むことができたと考える。

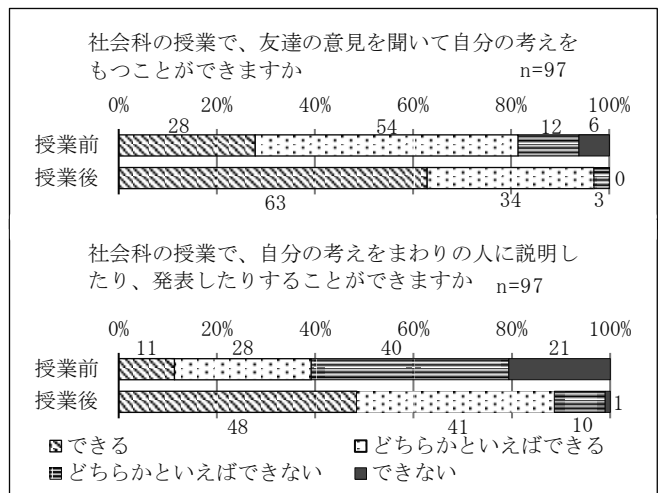


図3 検証授業前後の生徒用アンケート調査の比較1

- ・ 今までの授業は受動的で、単元が終わったら次へ進んでしまうものだったので、今回のように自ら問題点を見付け、どう改善していくのかなど、話し合っって考えを深めていくことは、新鮮でかつ公民に対するイメージが定着しやすくなりました。
- ・ 今回の授業は、「問い」があったり「発表」があったりと、みんなの一人一人の意見が聞けてよかったなと思いました。私は社会科がとても苦手ですが、少し苦手意識がなくなった気がします。
- ・ 自ら問いを作り、その問いを解決するためにはどうすればよいのかを考える中で、地方自治の単元での理解を深めることができました。また、グループでの話し合い活動が多かったため、意欲的に、そして積極的に授業に取り組むことができました。

(2) 生徒が多様な視点に着目して捉えることに対する有効性

生徒が多様な視点に着目して捉えることに対する有効性を確認するため、第1時と第4時の単元全体の「問い」の答えの変容を比較した。多様な視点に着目して、記述している生徒は、第1時、第4時の両方で見られたが、第4時になると生徒の課題解決の提案がより具体的になっていることが分かった（図4）。

また、生徒が多様な視点に着目できるようになったかを確認するために、「社会に見られる課題の解決を構想する視点」（表1）の考えられる視点例8項目について書かれているか、第1時と第4時の記述内容を比較した

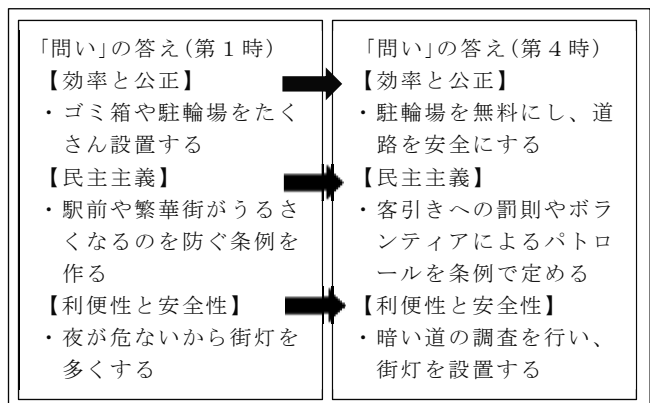


図4 単元全体の「問い」の答えの変容

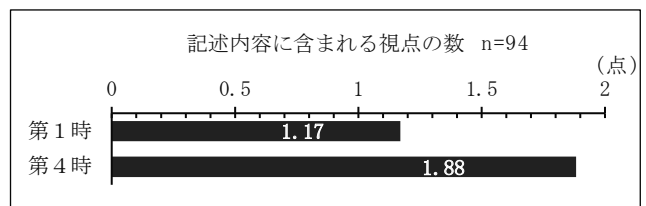


図5 記述内容に含まれている構想する視点の数

（図5）。第1時と比べて第4時では、「問い」の答えとして記述されている視点が増え、複数の視点に着目して記述した生徒が多くなったと考えられる。

(3) よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成することに対する有効性

検証授業前後の生徒用アンケート調査の比較では、「社会科の授業で、学んだことを基にして、自分がすべきことを考えることがありますか」に「ある」と回答した生徒の割合が14ポイント増加した。また、「社会の一員として、よりよい社会を考えることができるよう、社会科を勉強したいと思いますか」、「社会科を学習して、学習課題やテーマを設定し、討論（話し合い）を行うことが好きになりましたか」に「そう思う」と回答した生徒の割合もそれぞれ増加した（図6）。

また、生徒の授業後の感想には、以下のように社会のことに興味をもったり、社会のために自ら行動することの大切さを感じることに繋がったと考えられる記述が見られた。

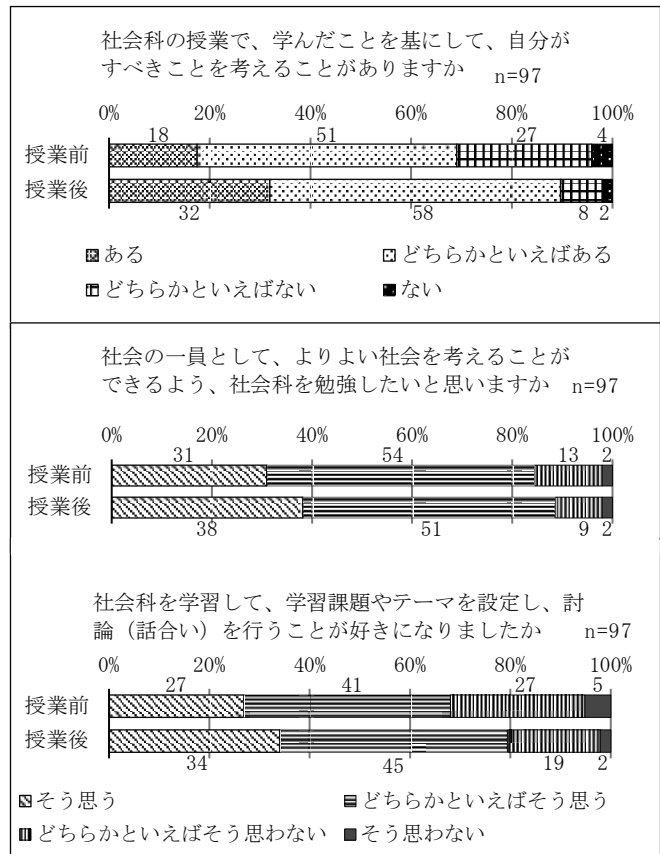


図6 検証授業前後の生徒用アンケート調査の比較2

- ・ 自分たちで解決法などを考えていくので、社会への関心が高まったように感じました。
- ・ 地方自治は、私たちの生活に直接関わるものなので、私たちが自ら進んで行動していくべきだと思います。
- ・ 今回の学習を踏まえ、どんなことが大切で、どんなことが必要かを自ら考えることができました。
- ・ 自分たちの町をどのようにしたらよいか、考えるきっかけになりました。
- ・ 普段は、大田区をよりよくするために何ができるかを考えたことはありませんでしたが、授業を通して意見を出して、政治について考えてみるのが大切だと思います。

以上のことから、生徒が自ら「問い」を設定し、解決に向けて構想することで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成につながったと考える。

第4 研究の成果

- ・ 着目させる視点を定めて資料を精選し、生徒に提示したことで、「社会に見られる課題の解決を構想する視点」に関する記述が増え、生徒たちの考えに深まりが見られた。
- ・ 生徒が自ら設定した「問い」を考察したり、構想したりすることで、自分と社会とのつながりを見だし、現代社会の課題を自分自身の課題として捉えることができていた。このような「問い」の解決に向けて課題解決的な学習を積み重ねていくことで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成につながっていくと考えられる。

第5 今後の課題

- ・ 「問い」を設定させる際に提示する資料について、生徒の発達の段階や単元に応じた精選方法を開発していく必要がある。
- ・ 本研究で行った指導法を地理的分野や歴史的分野でも実践し、指導法の汎用性を高めていく。